

学校名：神奈川県立光陵高等学校所属 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校勤務

担当：英語

氏名：大貫 謙一

1. 今回の研修における目的やねらい

国際教育等に関わる中で、自分自身が世界の状況をよく知らないという思い、そしてそんな状態のまま生徒の前に立つことへの戸惑いを、これまでずっと抱えてきてしまった。今回の研修における目的は、まず実際に発展途上の国であるタンザニアを訪れ、そこに暮らす人々の状況を自分の目で見て、話を聞いて、暮らしの中に漂う空気を自分の体で感じとること。ねらいはタンザニアでの体験を通し、国際社会との関わりにおいて自分がどのような気持ちで臨んでいくか、生徒たちを世界に向けさせる中で何を最も重視していくかについて、意思を固めることにあった。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

目的についてはほぼ達成することができた。今回訪問した場所は世界に数多くある国、地域の中の1国に過ぎない。それも、広いタンザニアの中のわずか2つの都市のみである。しかしながら、日本で得た情報をもとにしたタンザニアのイメージと、現地滞在を通じて得た情報をもとに考えるタンザニアの状況の間には予想以上に大きなギャップがあった。体を動かして自分の感覚で直接得る情報の大切さをあらためて認識することができた。ねらいについてもほぼ達成することができた。今回の研修を通じて、タンザニアの人たちのみならず、日本に籍を置く方々とも多く親交を深めることができた。暮らしている地域の違いや、それぞれの文化、考え方に大きな差があるものの、今回であった人たちはみな大切な「友達」もしくは「仲間」と認識している。これから先、これまで出会った多くの「友達」「仲間」、そしてこれから出会うかもしれないまだ見ぬ「友達」「仲間」とどうお互いに協力してより暮らしやすい世界を築いていくかを考え、その考えのもとに行動していくことが私のこれからの課題であると認識している。

3. タンザニアから学んだこと

タンザニアで出会った人たちは、よく知らないであろう遠い日本から訪れた私たちを温かく迎えてくれ、優しいまなざしで接してくれた。このホスピタリティはとてものありがたいものであった。先進国と称される日本からみれば、生活面で不自由に感じる事が多く、ものが少ない発展途上の国に暮らす人たちから、予想以上に明るい笑顔を見せていただけたことで、ものの豊富さと、生きていく上での喜びの度合いは単純に比例するものではないということを実感することができた。特にタンザニアの家庭に迎え入れていただいたことで、家族ともに生きることのうれしさと大切さを学べたことは大きい。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

今回の研修を通して、これからますます各国が協力して世界を作っていくことの大切さを認識することができた。実際にタンザニアを訪れ、その様子を知ったこと、タンザニアで暮らす人々と「友達」「仲間」としての関係を築けたことで、彼らのためにできることをしていきたいという強い気持ちが沸いている。この気持ちを多くの人と共有していきたい。今回の体験をできるだけたくさん、ありのままの状態の子供たちに伝えることで、これから先、タンザニアを含めた諸外国に目を向け、多くの人たちと「友達」「仲間」関係を築ききっかけを作っていきたいと思う。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

研修に参加した目的やねらいがほぼ達成できたことに加え、同じような思いを持つ神奈川県と山梨県の先生たち、および JICA のスタッフとの深い絆を結べたことがとてもうれしい。今回、同じ時を過ごし、共に感じ、考えを深め合ったメンバーは、これから先もお互いを信頼し、学び合い、助け合って教育活動に取り組んでいくことになるだろう。

6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

団長を務めさせていただいたが、研修の最後、JICA タンザニア事務所での報告会および記者発表会で挨拶をさせていただいた以外、これといった仕事もせずにタンザニアでの研修を終えたように思う。今回集まったメンバーはみな、自分自身の役割に責任を持って取り組むだけでなく、他のメンバーに対する心配りを大切にする人たちであった。事前研修の時からすでに調和のとれた素晴らしいチームであり、研修を通してさらにその結束力は強まっていった。これから先もこのチームは成長を続けることになると思う。

これまでの教師海外研修をもとにして、役割分担の枠組みを提示し、チーム作りの土台を整えてくださった JICA 横浜・山梨のスタッフの方々に心から感謝している。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

まずは、実際にタンザニアを訪れて、自分の目でその現状を見ることができたことが何よりもうれしい。この研修を通してタンザニアが好きになり、タンザニアについてもっと知りたいと思うようになった。そして、タンザニアの人たちのためにできることをしていきたいという気持ちが心に根づいた。

また、研修参加者がずっと一緒に行動するということは、心と体の両面で大きな負担を伴うのが普通だと思う。しかしながら、今回の研修を通してこの負担を感じることは全くなかった。逆に、時間の経過とともにお互いの信頼度が増し、ともに行動する安心感と楽しさが膨らんだように思う。

このメンバーとともにタンザニアを訪問できたことで、自分になかった視点でタンザニアの現状を捉えることができ、より多くの情報を持ち帰ることができたと思う。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

今回の研修を通して、私たちはとても素晴らしいチームを作ることができたと自負している。メンバーがお互いに力を出し合い、お互いの良さを取り入れることで、より多くの収穫を得る結果につながったと思う。次年度以降、私たちのチームを超えるチーム作りを目指していただけたらうれしく思う。

9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
8月10日(月)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	夜中の0時過ぎに羽田を出発。ドーハまで約11時間、その後ダルエスサラームまでさらに5時間以上のフライト。ドーハを現地時間の朝7時半頃に出発してからは、日本で読み終えることができなかったタンザニアに関する本を一気に読んで情報を頭に入れた。ダルエスサラームで最初の一步

		を踏み出した時の感動は一生忘れられないだろう。
8月10日(月)	JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	長瀬所長から、日本の小・中・高校生にもっとタンザニアに目を向けてほしい、そして日本とタンザニアの生徒ともに刺激を与えてほしいとのメッセージを受けた。この思いを日本での授業実践で実現につなげていきたい。 阿部所員から、タンザニア国内で一般犯罪が急増しているとの情報を受けた。予想していた以上の安全対策が必要と感じた。
8月10日(月)	JICA 所員との懇親会	タンザニアで暮らし、働いている所員のみなさんがタンザニアを愛する気持ち、より良い国にしたいと思う気持ちを感じ取ることができた。
8月10日(月)	本日のふりかえり	研修参加者みんながそれぞれ、実際にタンザニアに来て、事前に日本で得た情報をもとにそうぞうしたタンザニアの様子との違いに大きなギャップを感じ、研修を通してどのような視点でタンザニアの現状を捉えていくか、思いをめぐらせた。
8月11日(火)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	タンザニアでの援助の概要について説明を受けた後、教育・電力・農業セクター担当の所員からそれぞれの分野での援助活動について詳しく話を聞くことができた。日本からの援助活動が40年も前から行われ、大きな影響を与えていることを知り、タンザニアと日本とのつながりの深さに驚きを感じた。
8月11日(火)	本日のふりかえり	タンザニアに対するこれまでの援助活動について、これまで知らなかった多くの情報を得ることができ、研修参加者はそれぞれにこれからの援助のあり方について考え直すことになった。みな、タンザニアの人たちがこれからどのような国を作っていくことになるのか思いをめぐらせることになった。
8月12日(水)	キリマンジャロへ移動	キリマンジャロまで飛行機で1時間と少しの旅。飛行機の窓から見えた雲の上に高く頭を出すキリマンジャロ山の姿に感動を覚えた。
8月12日(水)	キリング中等学校 赤木隊員活動視察	タンザニアに来て最初の学校訪問。生徒たちの明るく元気な姿を見て心が躍った。 赤木隊員の数学の授業を見学。教材の数が充分ではないため、学習するスピードに大きな影響を与えているようだ。日本では小学校で学習するレベルの算数の問題にてこずっている様子だった。
8月12日(水)	モシへ移動	大型バンの上に参加者全員分のスーツケースと積んで車での旅。地元の人々が集うマーケットを

		訪れた。タンザニアの人々の生活の中に入っていく感覚を覚えた。
8月12日(水)	隊員との懇談会	タンザニアの警察学校で柔道の指導にあたって いる江波戸隊員、平川隊員より柔道の練習で用い る畳が不足しているという事実を知らされた。こ の時点では、どのような環境で練習に取り組んで いるのか想像ができなかった。
8月12日(水)	本日のふりかえり	研修参加者みんなが、自然とタンザニアの生徒 の中に入って交流ができたことに喜びを感じてい た。学校という場所は子供たちにとってとても大 切な場所なんだということをあらためて実感する ことができた。
8月13日(木)	カラंगा小学校 植松隊員活動視察	小学校での算数の授業。生徒の隣に座らせても らい、一緒にタンザニアの通貨であるシリングで の引き算問題練習に取り組み、生徒の解答を採点 してあげた。生徒はみなとても人なつっこく、笑 顔で接してくれる。休み時間にも大勢の生徒が近 寄ってきて、本当に近い距離でコミュニケーション をとることができた。
8月13日(木)	警察学校 江波戸隊員活動視察	訓練している警察犬や馬、生徒が寝泊りする宿 舎、柔道の練習場所など、様々な施設を見せても らうことができた。柔道の練習場所は床が薄いビ ニールマットのようなもの。畳が不足していると 江波戸隊員、平川隊員が訴える現状をようやく理 解することができた。と同時に、発展途上の国で はスポーツにお金をかける余裕はないのだという ことをあらためて認識した。
8月13日(木)	本日のふりかえり	タンザニアの子供たちと触れ合うことができた うれしさがある一方、学校教育における問題、警 察官としてのあり方、スポーツ振興など、日本と のギャップの大きさを痛感させられ、改善の方策 がわからない現状に歯がゆさを感じた。
8月14日(木)	タンライスプロジェクト 視察	キリマンジャロでの稲作における1970年代から 続く日本からの援助と現状について詳しい説明を いただいた。 午後には水稻栽培の現場を訪問させていただい たが、そこでの光景は日本の稲作地域と同じで、 タンザニアに来ていることが不思議に感じるほど であった。
8月14日(木)	専門家との懇親会	夕方より体調不良。ホテルのベッドで休養をと らせてもらった。一晩中、悪寒と全身の筋肉の痛 みに苦しんでいた。
8月14日(木)	本日のふりかえり	タンザニアで実際に栽培技術指導にあたる方々

		<p>の話を聴き、農業分野での援助活動の難しさを認識した。一方で、長期に渡る日本からの支援があることを知り、また、実際に稲作の現場を見ることで、日本人としての喜びを感じることができた。</p>
8月15日(木)	タンライスプロジェクト 農村視察	<p>農家の家庭を訪問させていただき、そこでの生活の一部を体験させていただいた。近くから汲む井戸水が中心ではあるが、予想していた以上に水が豊富だということに驚きを感じた。家族のみんなが私たちを温かく迎えてくれ、やさしい気持ちで接してくれたことにとても感謝している。短いものではあるが一緒に過ごした時間はずっと心に残るだろう。</p>
8月15日(木)	市内視察	<p>町の中、そしてマーケットの中を歩き、現地の人々がにぎわう様子を目の当たりにすることができた。</p>
8月15日(木)	本日のふりかえり	<p>研修参加者が3つに分かれて体験した家庭での生活について情報共有した。比較的裕福な家庭はどこも教育にお金をかけているようだ。男女の分業がはっきりしており、特に女性は朝から晩まで家事で忙しい。また、女性から求婚することはない。遠い昔の日本の文化に近いものを見た。</p>
8月16日(金)	ダルエスサラームへ移動	<p>飛行機での移動。ザンジバルの空港を経由。窓越しに空から観光でにぎわうザンジバルの風景を楽しむことができた。</p>
8月16日(日)	専門家との懇親会	<p>翌日訪問する TANESCO で働く日本人スタッフとの懇親会。みなさんタンザニアでの仕事にやりがいをもって元気に生活している様子をうかがうことができた。</p>
8月16日(日)	本日のふりかえり	<p>校種ごとのグループで、日本に帰ってからの授業実践に向けたアイデアを出し合った。タンザニアを訪れ、日本では知りえなかった情報を得たことで、これから何をポイントとして授業実践を行うのか、みな少しずつその輪郭が見えてきた。</p>
8月17日(月)	タンザニア電力供給公社 (TANESCO) プロジェクトサイト視察	<p>電力供給のしくみとタンザニアでの電力供給事情について詳しく話を聞くことができた。タンザニアの人々に、明るい生活、少しでも便利な生活を送ってもらいたいという強い思いをもって、日本の企業に所属する人たちが頑張っていることを知り、心が温まった。</p> <p>タンザニア全体での電力供給率がわずか24%ほどという現実を知り、支援の必要性を認識した。</p>
8月17日(月)	市内視察・教材購入	<p>ティンガティンガを作成・販売する一角とその近くのショッピングモールを訪れた。ティンガテ</p>

		<p>イングの美しさに魅了され、8枚もの絵を購入してしまった。日本に持ち帰り、多くの人に見てもらいたいという思いに駆られた。</p>
8月17日(月)	本日の振り返り	<p>TANESCOの日本人スタッフと直に接したことで、研修参加者みんなが、支援の場で働く人の姿に強く心を惹かれていた。</p>
8月18日(火)	ムランディジ小学校 三隅隊員活動視察	<p>小学校、通常学級での交流のほか、特別学級にも入らせてもらった。ここでは軽度知的障害の生徒と聴覚障害の生徒が1つの教室で学んでいた。通学できる子どものみが教室にいるようで、村の中には障害があつて学校に通えない子供たちもいるのだろう。先生たちが村を歩いて、そのような子供たちがいないかを探して回ることもあると聞き、日本との大きなギャップを感じた。</p>
8月18日(火)	市内視察・教材購入	<p>ショッピングモールを訪れ、その中にあるスーパーマーケットやお土産店を見て回った。外国資本のお店で商品の価格はやや高め。現地の人たちがここで買い物することはないのだと思うと、申し訳なさを感じた。</p>
8月18日(火)	JICA 所員との懇親会	<p>初日にお会いして話を聞かせていたみなさんとの再会。ここに集まった全員、タンザニアが好きな人たちなんだという実感が込み上げた。</p>
8月18日(火)	本日のふりかえり	<p>研修参加者みんなが、小学校で校歌を元気よく歌う子供たちの姿を見ての感激を思い返すと同時に、特別支援学級の様子を見て改善の必要性を感じ、何か協力したいという気持ちに駆られた。</p>
8月19日(水)	JICA タンザニア事務所 報告会および記者発表会	<p>タンザニアに来て実際に自分たちの目を見て聴いて感じとったことを思い返し、これから日本に帰って、日本の子供たちにもっとタンザニアのことを良く知ってもらおうと決意を新たにす時間となった。</p>
8月19日(水)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	<p>大使から、タンザニアの現状について今回の研修では知ることができなかったこともお話をいただいた。各国それぞれに良いところがある。国と国の関係も時間の流れとともに変わっていく。タンザニアのことをもっとよく知り、日本の多くの人にその良さを知ってもらおうとともに、日本の良さを他の国の人たちに知ってもらうことの大切さを認識させられた。</p>
8月19日(水) -20日(木)	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	<p>タンザニアで研修中ずっとお世話になった方々との別れを惜しみつつ、ダルエスサラームを後にした。タンザニアで学んだことをこれから日本でどう生かすか、責任の大きさを感じながら、再び</p>

		日本の地に降り立った。
--	--	-------------